配付用資料

学齢期のことばの支援【話し言葉編】
吃音・非流暢さへの支援A

柔らかい声、話す速さの調整、タ行音やハ行音等の音の作り方等への支援

松浦　千春

DIVERSE・ダイバース
ことばの発達支援・学習支援室

chiharu.matsuura@diverse-web.org

©DIVERSE・ダイバース

吃音とは？

〇言葉をくり返したり、言葉を引き伸ばしたり、言葉がつまったりする様子が続いている状態のことです。
例）「わ、わ、わたし」・「わーたしね」・「＊＊＊＊っわたし」　等
〇言葉を出すための本人なりの工夫や、言葉を出すまでの不安等も含めて吃音とする場合もあります。
例）腕を軽く振りながら声を出す、足を踏みならしてから声を出す　等

支援について

吃音の状態は一人一人異なるため、必要な支援も異なります。
支援の「例」としては、以下のようなものがあります。

〇声を出すことについての不安を軽減するために
柔らかく声を出す練習・滑らかに声を出し続ける練習　等

〇吃音について知るために
児童向けに書かれた本を読んだり、今現在分かっていることを整理する活動　等

〇自分の言葉の状態について話していくために
他の話と同じように、自分の言葉についても話す機会を保障する　等

〇周囲の環境を整えるために
吃音について伝える・関わり方について伝える　等

Q１　なぜ、吃音になるのですか？
A１　１つの要因だけでなく、いくつかの要因が重なっているのだろうと考えられています。現在も世界中で研究が進められています。

Q２　周りの大人はどのように接すればよいですか？
A２　話し方ではなく、その子が伝えたい内容をくみとりながら、やりとりを続け、楽しんだり内容を深めたりしていただくとよいと思います。

Q３　誰に相談するとよいですか？
A３　言葉の発達や支援に詳しい専門家に相談されるとよいと思います。医師、言語聴覚士、心理士、教師等の職に就いている方々の中にいます。

自分の言葉の状態と向き合いながら、付き合いながら、勉強したり、友達とおしゃべりしたり、大好きなことに、とことん打ち込んだり・・・のびのび過ごして、やってみたいな、と思ったことに、どんどん挑戦してほしいと思っています。

Illustration：こみみさん

ことばの発達支援・学習支援室
ＤＩＶＥＲＳＥ
ダイバース®
http://diverse-web.org/
otoiawase@diverse-web.org
3歳～１５歳のお子様が対象です
お気軽にお問い合わせください

吃音・リーフレット・保護者様向け
吃音があるお子様に関わる方への複写・再配布等可能です
©ＤＩＶＥＲＳＥ・ダイバース

専門家と当事者との情報格差

誰でも情報にアクセスできる環境 ≠ 知っている

・保護者向け講演会でのエピソード

高学年児童を育てている保護者より
- 吃音の具体的な症状を初めて知った
- 我が子の話し方とそっくりだ

保育園に勤めている保育士より
- 望ましいと思ってとってきた対応への疑問

©DIVERSE・ダイバース

多角的なアプローチは大前提

・アセスメント → 多角的なアプローチ

・話し方へのアプローチはその中の1つ

直接法・統合法・間接法・その他

※子供の状態像は多様
→ 名前がある方法にとらわれずカスタマイズを

©DIVERSE・ダイバース

補足

・直接法とは
流暢さを目的とする流暢性形成法
苦しすぎない非流暢さを目的とする吃音緩和法
・統合法とは
その子にとって必要なことをミックスしていく考え方
・間接法とは
環境調整・発話への不安を軽減させる脱感作等
・その他のアプローチとは

©DIVERSE・ダイバース

話し方を話題にできる関係

・支援者からのご相談の中に

話題にすることで　話さなくなってしまうのでは？
話題にすることで　意識させすぎてしまうのでは？

・子供にとって話題にしていけないこととは？
→
・支援者が躊躇したりひるんだりしているのなら
→

©DIVERSE・ダイバース

子供は子供なりに捉えている

・話し方について話題にしている時の動画

©DIVERSE・ダイバース

根拠に基づくことは大切に

・積み重ねられてきた知見に基づく根拠

方法A → 結果Dになることが多い

・<u>その子への働きかけへの反応による根拠</u>

方法B・方法C → 結果Dになることが多い

反応を捉える力

©DIVERSE・ダイバース

流暢だからラクに話してる？

聞き手に流暢な発話として届いている

→ 話し手がラクに（気持ちも滑らかに）話している？

「友達と話してる時のほうが
いっぱい（吃音が）出るけど、ラク。」
「まとめの発表ね、（書いた文章が）長かったから、
ととっとか、つっかえないで言えてラクだった。」

©DIVERSE・ダイバース

知っている・スキルがある安心感

・知らないもの　コントロール不可能なもの

→　使うことが不安になる
　　恐いと感じることもある

・知っていることや　ある程度コントロール可能なもの

→　知らないものより使いやすい
　　おびえる対象にはなりにくい

©DIVERSE・ダイバース

コントロール可能なことを感じる

・息（呼吸）

・声の高さ

・声の大きさ

・声の柔らかさ

・話す速さ

・音の出し方とつなぎ方（構音のための動き）等

©DIVERSE・ダイバース

言語力は余力（余裕）につながる

・言葉の力を総合的に高める
↓
非流暢さの有無にかかわらず・・・
コミュニケーション時の余力の増加
「分かる」「伝わってる」
↓
コミュニケーション後の満足感の増加
「分かった」「伝わった」

©DIVERSE・ダイバース

その子の話し方と伝わりにくさ

・話し方へのアプローチ
→ その子にとって取り入れた方がよい方法か？

・A児とB児の非流暢さの違い

音声（A児・B児） ＋ トランスクリプト（別紙）

J-CLD版ナラティブ再生言語評価法「かえるさんどこいったの」実施時

A児とB児の非流暢さの違い

A児

① ② ③ ④ ⑤ ⑥

⑦ ⑧ ⑨ ⑩ ⑪ ⑫

B児

① ②

©DIVERSE・ダイバース

試してみるか検討してみる機会を

例）DAFについて

・その存在を伝えることは大切にしている
　※その他の方法も含めて

・使用の希望があったとき　大切にしていること

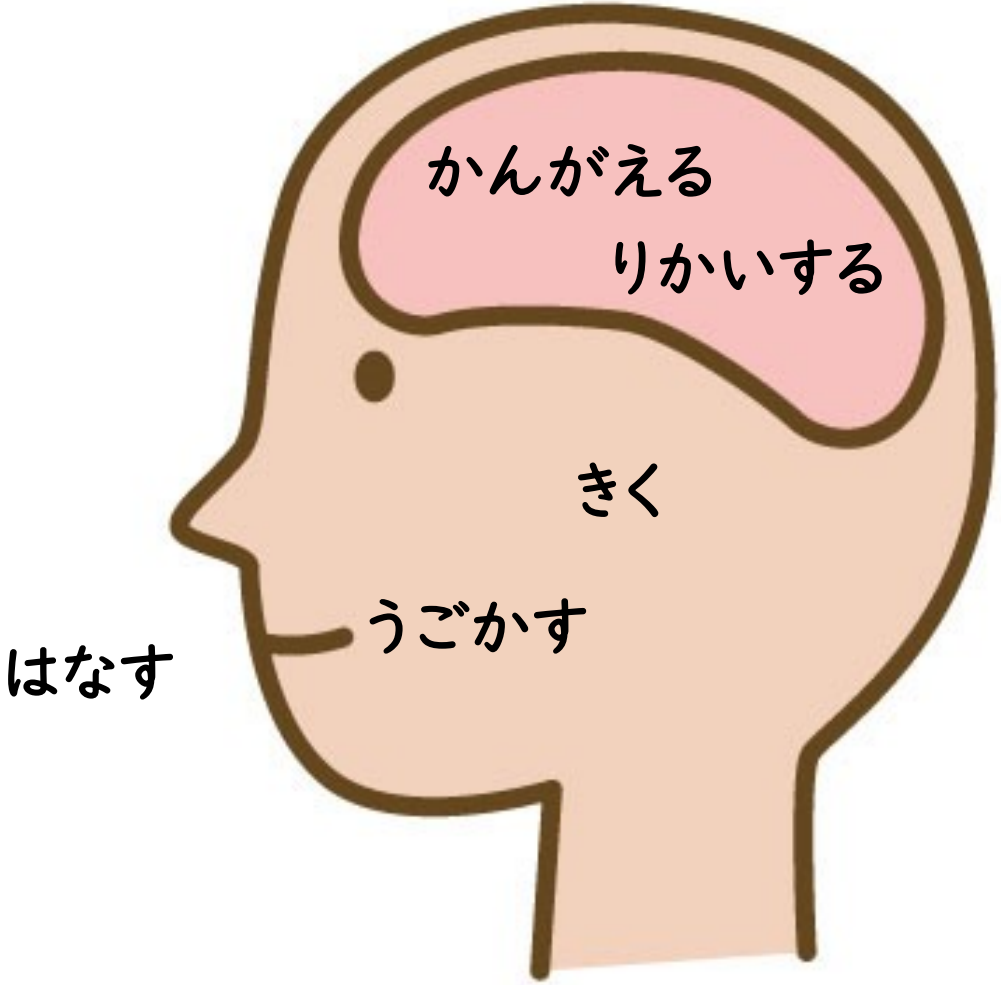
©DIVERSE・ダイバース

発話に必要な器官を知る

・発話に必要な器官が何なのか考える機会は少ない

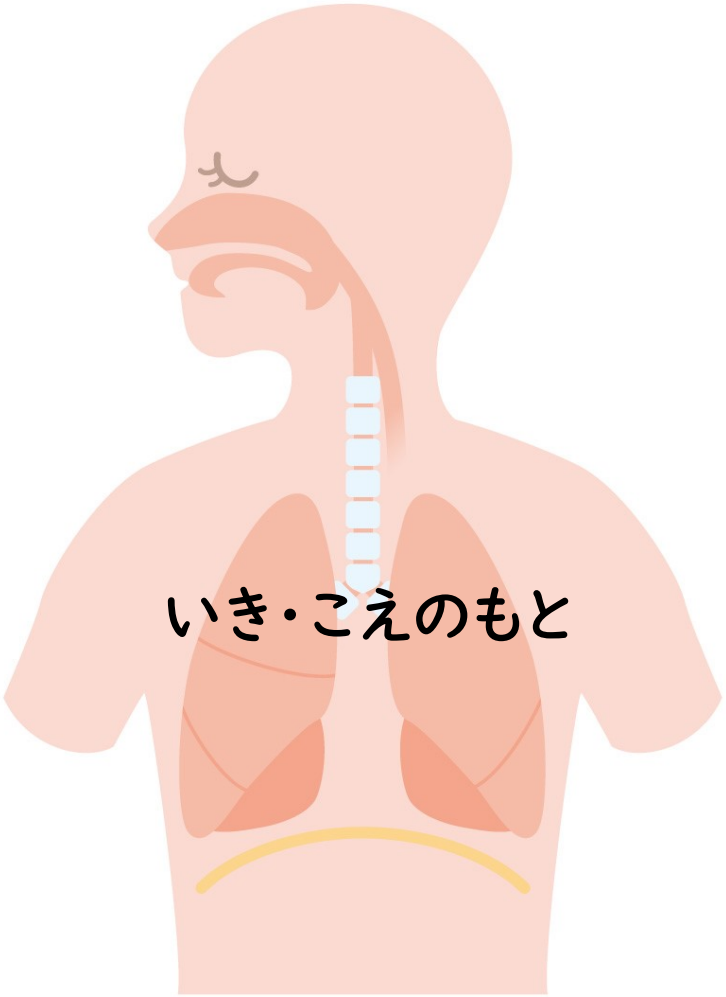
・その子が理解しやすい方法

©DIVERSE・ダイバース



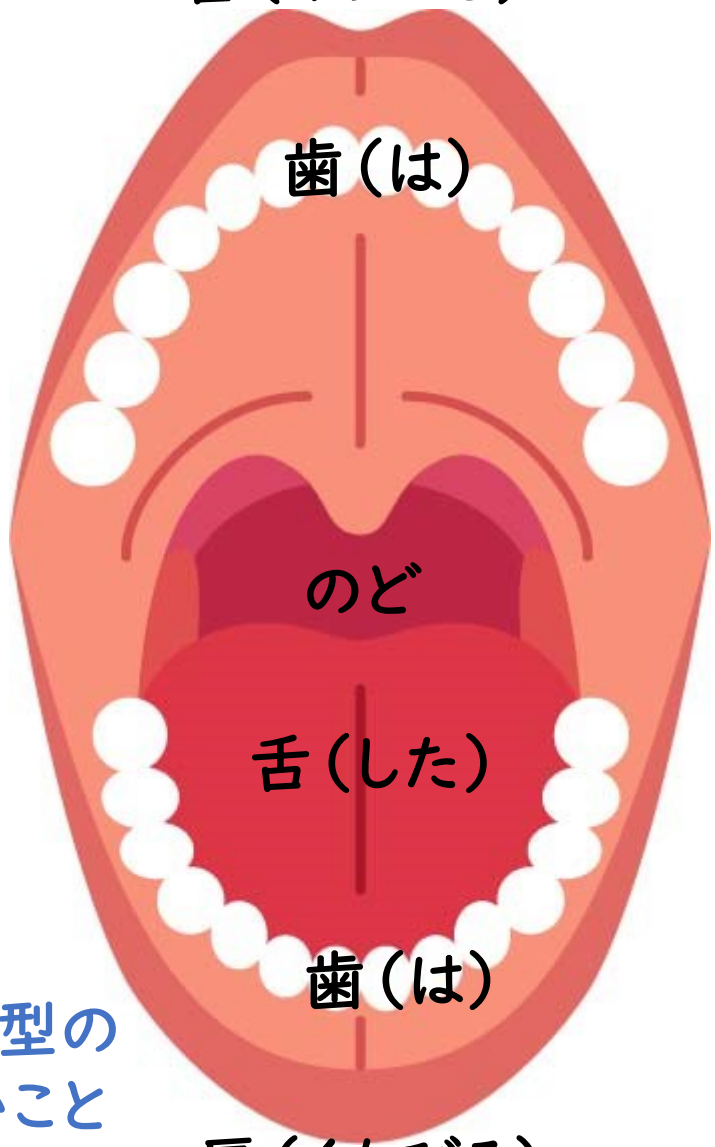
※年齢や理解に合わせて漢字表記のシートも使っています。

©DIVERSE・ダイバース



※年齢や理解に合わせてより詳しい図を使うこともあります。

©DIVERSE・ダイバース



※子供によっては模型の方が分かりやすいこともあると思います。

©DIVERSE・ダイバース

器官の動きを自分で感じる

・器官の動きを改めて感じる機会は少ない

・その子が感じやすい方法

・口腔器官を含めて、見えにくい部分の動きも感じる（固有受容感覚）

©DIVERSE・ダイバース

○○をやってみよう

・口をあけたまま「ぱ」と言ってみよう
→　言えない
→　なぜだろう？
→「ぱ」を言う時には唇を使っているからだ

・舌を出したまま「ら」と言ってみよう
→　言えない
→　なぜだろう？
→「ら」を言う時には舌の先を使っているからだ

©DIVERSE・ダイバース

どこが・どうなっている？

※大きめの鏡を使うこともあります。

©DIVERSE・ダイバース

声の可視化・見て確認する

・いろんなアプリが身近にある子供たち

→ 声の可視化はアプリでも可能

使っているアプリのご紹介

©DIVERSE・ダイバース

声を　見てみよう

※アプリなどで実際の画像（動き）を見せています。

©DIVERSE・ダイバース

息をコントロールしてみる

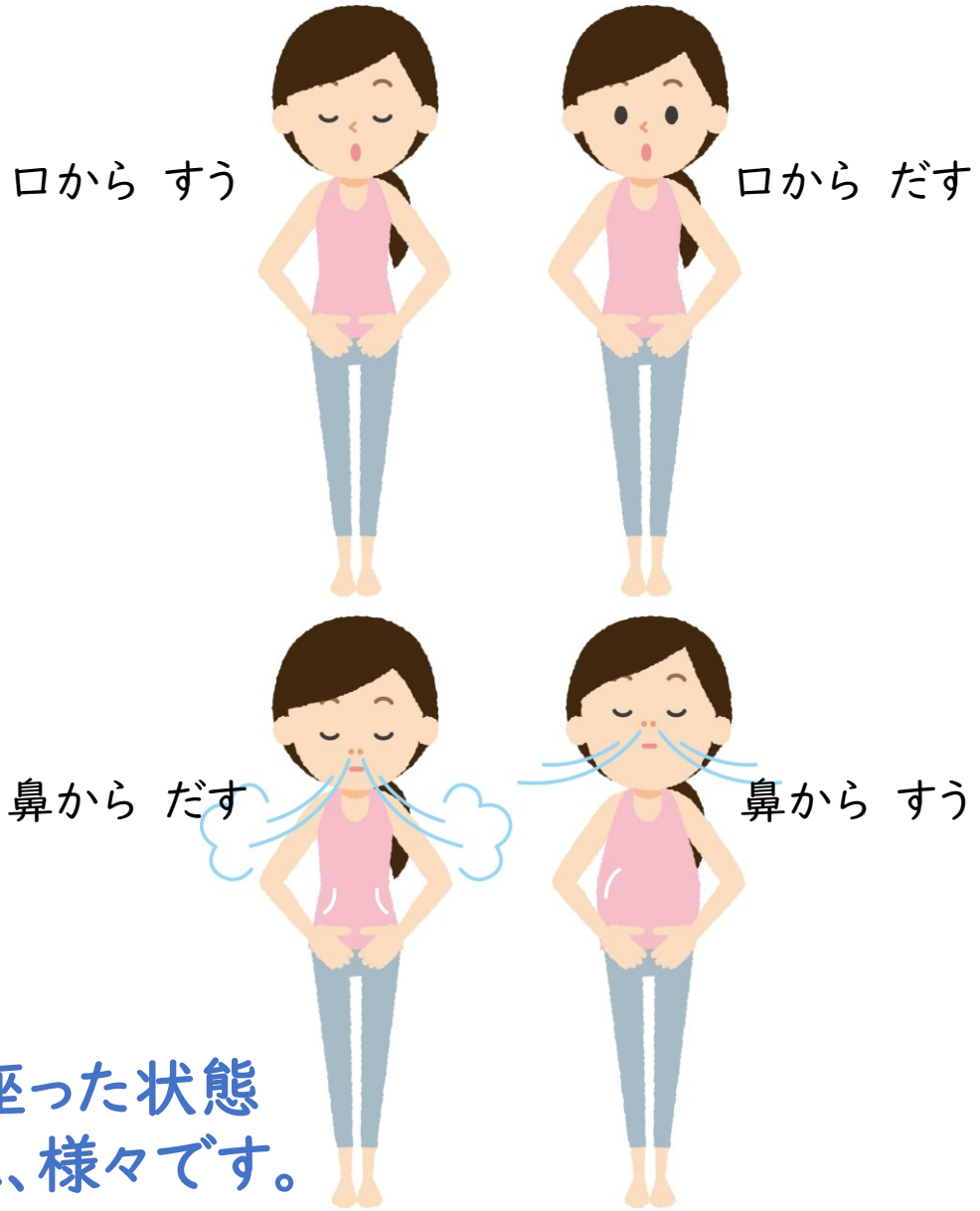
・息を吸って止めてみる

・息を吐けるだけ吐いてみる

・決められた秒数だけ吐いてみたり、吸ってみたり

・鼻から吸って口から吐く以外にも

©DIVERSE・ダイバース



※立った状態、座った状態
寝転んだ状態、様々です。

©DIVERSE・ダイバース

声の高さを変えてみる

・高い声

・いつもの声

・低い声

©DIVERSE・ダイバース

ひくい　声

※その子が、幼い子向けの
絵だな、と感じる絵は、
控えるようにしています。

©DIVERSE・ダイバース

たかい　声

※矢印の方向は、子供たち
それぞれがイメージしやすい
位置に変えています。

©DIVERSE・ダイバース

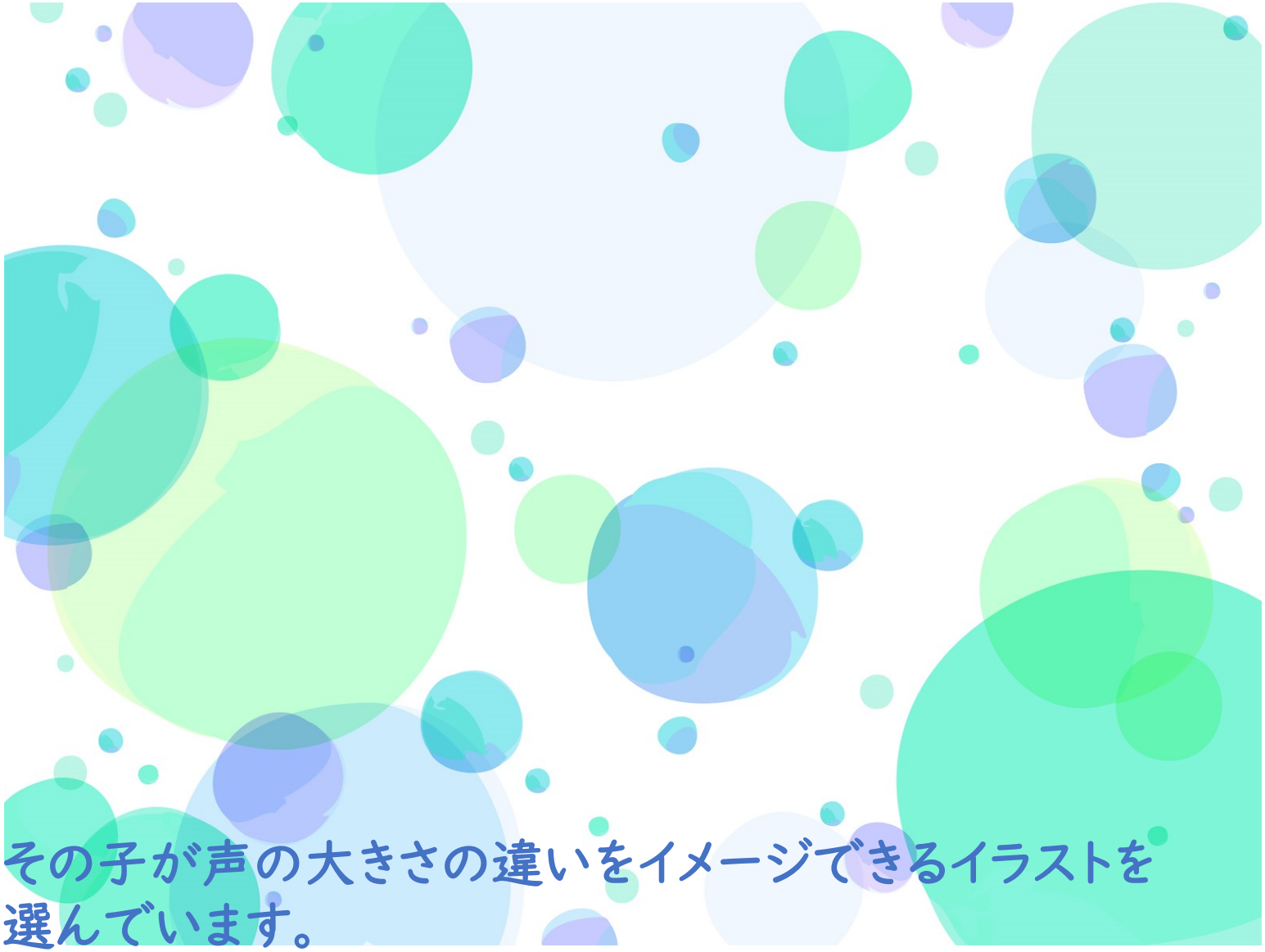
声の大きさを変えてみる

・ささやき声
　口の形だけ変えて出すくらいの声

・ないしょ話の声
　耳元でささやくくらいの声

・小さめの声
　同じテーブルに座っていれば聞こえるくらいの声

©DIVERSE・ダイバース



※その子が声の大きさの違いをイメージできるイラストを
選んでいます。

©DIVERSE・ダイバース

※イラストは
子供と一緒に
選ぶことが多いです。

©DIVERSE・ダイバース

声の柔らかさを変えてみる

まず・・・

その子の「柔らかい」のイメージを言語化しておく

その子の「固い」のイメージも言語化しておく

・息（口・鼻） → → → 声（子音・母音）

・子音 → → → 母音

※子音の出し方をイメージできていることは大切

やわらかい　と　かたい　の　＿＿＿＿＿＿＿＿　さんのイメージ

※イラストではなく言葉で書いていくこともあります。

©DIVERSE・ダイバース

あ
い
う
え
お

↑
ここには「息」か
「子音の作り方」のどちらかを
その子がイメージしやすい言葉
や図等で入れています。

目でもかくにん♪

©DIVERSE・ダイバース

ワークシートは手書きのことも

©DIVERSE・ダイバース

話す速さを変えてみる

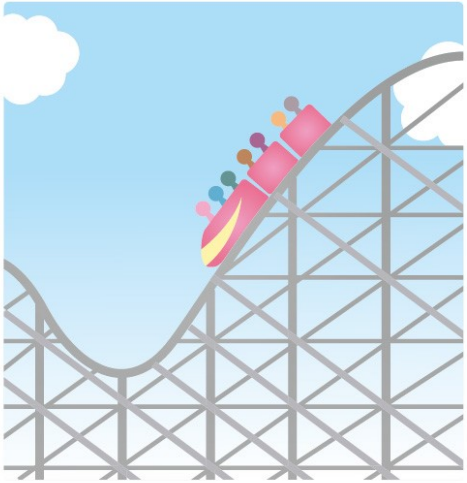
まず・・・
その子の「ゆっくり」のイメージを言語化しておく
その子の「速い」のイメージも言語化しておく

例）これまで出てきたイメージのうちの1つ
　〇〇遊園地のジェットコースター（日本一遅い）
　〇〇ランドのジェットコースター（日本一速い）

・単語で　・文で　・文章で　・会話で

©DIVERSE・ダイバース

ゆっくり ♪ と はやい ！ の ＿＿＿＿＿＿＿＿ さんのイメージ



※実物の写真を使うこともよくあります。

©DIVERSE・ダイバース

不自然な速度は伝わりにくい

話し方にアプローチする目的の1つは
「伝わりやすさ」

→ 不自然な速度は伝わりにくい

※どの部分の速度を落とすのか

©DIVERSE・ダイバース

子供が好きな活動の中で

・音声でのやりとりが生じる遊び

例）マスの中の文を<u>決められた読み方</u>で読む

・時間を決めてから

・フィードバック方法を決めてから

・振り返りの方法も決めてから

©DIVERSE・ダイバース

音の出し方を知る

どうすればいいのか分からない
↓
こうすれば出せる（出しやすくなる）

※知っている ≠ いつでも出せる

※構音指導のノウハウを活用していく。
全ての音の出し方を伝えられる技術は必要

©DIVERSE・ダイバース

構音改善指導との違い

音を出すことそのものはできている

※構音改善の為の支援も必要な場合もある

（吃音＋構音障害）

音を出すための動きを改めて確認する

「そっか　こんなふうに　動かしていたんだ」

©DIVERSE・ダイバース

ハ行音

- /h/ ハ・ホ・ヘ
  手をあたためてみよう
  鏡や窓ガラスを曇らせてみよう
- /ç/ ヒ
  小指を横にしてくわえてから・・・
- /ɸ/ フ
  つるしてあるシートをゆらしてみよう
  小さなボールを転がしてみよう

具体的にお伝えします

©DIVERSE・ダイバース

は

は ぁ

※敢えて視覚的にスペースを空けて、出だしの
音の作り方（動き）を意識させることもあります。

は あと（ハート）

は あぷ（ハープ）

は ぷにんぐ（ハプニング）

は んぷく（反復）

は らん（波乱）

は っそう（発想）

は っこう（発酵）

※言葉を選択する時の松浦の基準
その子の発達に添った言葉
その子が出しやすいだろうと判断した言葉
（前半・後半）
その子が出しにくいだろうと判断した言葉
（途中）

©DIVERSE・ダイバース

タ行音

- /t/
  舌先を軽くかんで口を開けたり閉めたり

- /tɕ/
  /t/と/ɕ/という音の組み合わせ

- /ts/
  唾飛ばし（←構えの口形、声かけはポイント）

具体的にお伝えします

©DIVERSE・ダイバース

言葉かけで大切にしていること

・流暢 ≠ 良い

　子供の捉え方は様々

　非流暢 ＝ 悪い にならないように

・自分の動きを感じることを促す言葉かけ

・自分の声を聞くことを促す言葉かけ

©DIVERSE・ダイバース

試してみたことは選択肢に入る

・卒業式の呼びかけ
練習の時は言いにくいことは1度もなかった
「余裕。大丈夫。」
当日、自分の番になったら声が出ない！
↓
「まさかと思った。」
「前にやってみたさ、息を全部吐いたやつ、やってみた。
出た。」

この子の場合：息を吐ききる → 声のもとになる息を吸う
→ 音を作る構えをする → 少しずつ音を出し始める

当事者同士のつながり

・当事者同士のつながり

→ 「似たような経験がある」ことでの安心感

→ これからを考えるためのヒントが得られたり
具体的な対応について情報共有ができる期待感

→ 愚痴も含めていろんな思いをシェアできる楽しさ 等

質問・その他

©DIVERSE・ダイバース

引用・参考文献等

- 飯村大智（2018）.吃音がある言語聴覚士および言語聴覚士学生のピアサポートの意義に関する調査研究.コミュニケーション障害学, 35（2）,73-78.

- 小林宏明.（2014）.ICFに基づいたアセスメントプログラム.学齢期の吃音の指導・支援.改定第2版.学苑社.

- 小林宏明・河合紀宗.（2013）.シリーズきこえとことばの発達と支援.特別支援教育における吃音・流暢性障害のある子供の理解と支援.学苑社.

- Guitar,B.(2005).Stuttering:An Integrated Approach to Its Nature and Treatment.長澤泰子監訳.（2007）.吃音の基礎と臨床ー統合的アプローチ.学苑社.